

鳥取県病原微生物検出情報

(令和8年3月検出分 検体採取 令和8年2月及び3月)

令和8年4月17日
鳥取県衛生環境研究所

1 急性呼吸器感染症

臨床診断名が急性呼吸器感染症の検体58件について検査を実施したところ、以下のとおりの結果であった。

○検査対象（ウイルス）

ライノ、メタニューモ、インフルエンザ-A型及びB型、パラインフルエンザ1-4、RS-A型及びB型、ボカ、SARS-CoV-2、エンテロ、アデノ、コロナNL63、コロナOC43

○検査対象（細菌）

マイコプラズマ

○検出結果

58件中44検体（76%）から上記対象病原体が検出された。内訳は、ライノ：12件、RS-B型：3件、SARS-CoV-2：4件、アデノ：3件、インフルエンザB型：13件、コロナNL63：1件、コロナOC43：14件であった。令和7年4月から令和8年3月検出分と合わせた年齢別検出数は表1のとおり（ただし、検出件数は重複検出を含む。）。

表1. 急性呼吸器感染症の病原体、年齢別検出件数（令和7年4月～令和8年3月検出分）

年齢	病原体年齢別検出数（3月検出数/累積）														合計	
	0-4		5-9		10-19		20-39		40-59		60-79		80≤			
標本数	25	308	3	45	4	20	7	68	7	109	7	142	5	66	58	758
ライノ	9	178	1	16		6	1	19		19		14	1	3	12	255
ボカ		72		1				1				2		1		77
ヒトメタニューモ		12								2		6				20
RS-A		6								1		3				10
RS-B	2	19		2			1	1	5		8		9	3	44	
SARS-CoV-2		13		1		1	6	1	16	2	36	1	20	4	93	
パラインフルエンザ1		1								1		2				4
パラインフルエンザ2		7		3								2				12
パラインフルエンザ3		16								6		6		5		33
パラインフルエンザ4		21		2						1		2		1		27
アデノ	3	33		2				3							3	38
エンテロ		11														11
インフルエンザA型		16		5		4		9		12		10		4		60
インフルエンザB型	2	4	3	4	4	6		3	1	2	2	3	1	1	13	23
コロナNL63	1	11								2		2			1	15
コロナOC43	7	14					2	4	2	4	2	4	1	1	14	27
マイコプラズマ		9		1		1		6		3		1				21
検出せず	6	28		11		4	4	24	2	36	1	46	1	21	14	170

※コロナNL63及びマイコプラズマは5月21日搬入検体分、コロナOC43は10月1日搬入検体分から実施

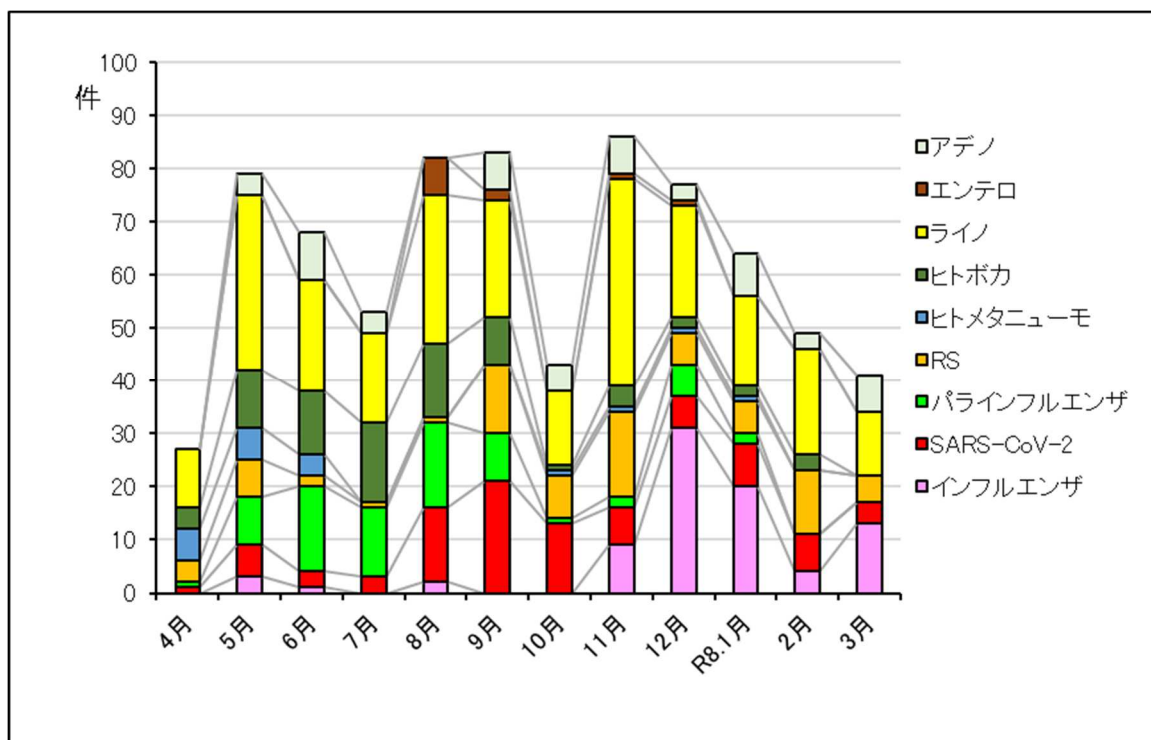


図1. 月別主要ウイルス検出状況 (令和7年4月～令和8年3月検出分)

アデノウイルス3件は、すべてC種2型であった。これは、急性呼吸器感染症の原因となるウイルスである。

インフルエンザB型13件はすべてビクトリア系統であった。WHOによれば2023年9月以降、B型はすべてビクトリア系統となっている。

SARS-CoV-2の系統は表2及び図2に示すとおり、RC.1が2件、PQ.2.8.1が1件、PQ.31.1が1件、であった。これらはすべてNB.1.8.1系統の下位系統であった。国立感染症研究所が公開している全国のゲノムサーベイランスによる系統別検出状況でも、NB.1.8.1系統と、NB.1.8.1系統の下位系統が依然大多数を占めている。

表2. SARS-CoV-2 ゲノム解析結果 (令和8年3月検出分)

検体採取年月日	年齢	型別
R8.2.18	70代	RC.1
R8.2.25	40代	PQ.2.8.1
R8.2.26	80歳以上	PQ.31.1
R8.3.4	70代	RC.1

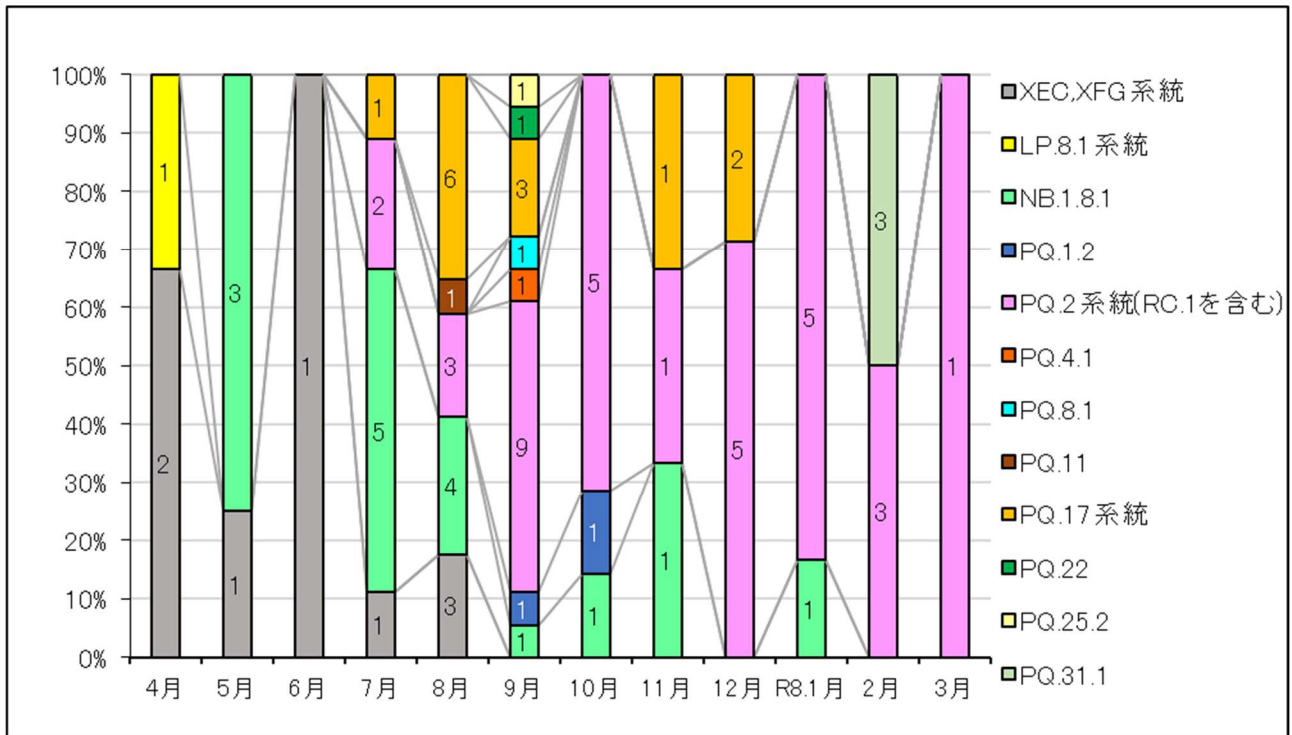


図2. 月別 SARS-CoV-2 ゲノム解析結果 (令和7年4月～令和8年3月検出分)

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の9件について検査を行ったところ、ノロウイルス G2 が6件検出された。GII.P16GII.4 が2件、GII.P.17 GII.17 が1件、GII.4 が1件、GII.17 が1件、型不明が1件であった。アデノウイルス C 種が4件 (5型が3件、2型が1件) みられたが、すべてノロウイルス G2 が検出された検体でみられ、量的にも少量であった。アストロウイルスが1件、A群ロタウイルスが1件検出された。A群ロタウイルスが検出された患者は、ノロウイルスが大量 (Ct21) に検出されていることから胃腸炎の主要因と考えられ、A群ロタウイルスについては患者が3か月令であり検出量も微量 (Ct>35) であったことから、ワクチンが排出された可能性を否定できない。

3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

臨床診断名がA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の16件について検査を行ったところ、A群溶血性レンサ球菌が10件 (T型別3型:5件、T型別4型:1件、T型別B3264型:1件、型不明:3件) 分離された。3型、4型、B3264型は咽頭炎で多くみられる型である。

4 RSウイルス感染症

臨床診断名がRSウイルス感染症の2件について検査を行ったところ、A型が1件、B型が1件検出された。

5 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎の1件について検査を行ったところ、エンテロウイルス、アデノウイルス、ムンプスウイルス、ヘルペスウイルスのいずれのウイルスも検出されなかった。

6 流行性耳下腺炎

臨床診断名が流行性耳下腺炎の1件について検査を行ったところ、ムンプスウイルスは検出されなかった。

7 水痘

臨床診断名が水痘の1件について検査を行ったところ、水痘帯状疱疹ウイルスが検出された。

8 鼠咬症

台湾からの旅行者が来日2週間前に右手首をネズミに噛まれ、来日3日後に歩行困難となり救急受診し入院となった1例について検査したところ、*Streptobacillus moniliformis*が検出された。血液所見などは以下のとおり。

<患者の状況>

- ・右手首に噛まれた跡と皮下血種あり。
- ・両下肢に紫斑あり。
- ・全身筋肉痛あり。
- ・意識あるが、下肢脱力あり

<血液所見>

CRP 18.87 mg/dL
血小板 299,000 / μ L
白血球 1.7万 / μ L
AST 85 U/L
ALT 99 U/L
DIC あり

<尿所見>

混濁なし
pH 6
蛋白尿 あり
尿潜血 あり

<検査結果>

- ・SFTS：陰性
- ・ツツガムシ病：陰性
- ・日本紅斑熱：陰性
- ・レプトスピラ：陰性
- ・*Streptobacillus moniliformis* 検出（血液抽出DNAからの16SrRNAシーケンスから判定）

<帰結>

入院7日後、解熱しないまま本人の強い希望で帰国